

# 平成31年度 竹田教育事務所 重点方針

## 1 学校マネジメントの深化

### □「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化

- 観点Ⅰ：的確な目標の設定（学校の教育目標見直しとの整合性確保）
- 観点Ⅱ：検証・改善サイクルの確立
- 観点Ⅲ：目標の共有・連動（主要主任による指導・助言）
- 観点Ⅳ：「チーム学校」の確立

### □「地域とともにある学校」への転換

- 学校運営協議会（CS）の活性化
- 学校運営協議会と「協育」ネットワークとの連携促進
- 学力向上会議の充実

### □マネジメントツールを活用した教育課程レベルでの校種間連携の推進

- 「学校評価の4点セット」による校種間連携の推進（小学校→公立幼稚園・小学校⇄中学校・小学校⇄小学校）
- 小学校のスタートカリキュラム活用による保幼小連携の推進

## 3 体力向上の推進と健康課題への対応

### □運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進

- 「一校一実践」の改善
- DE層への支援
- 課題のある項目を中心とした体力テストの再実施による成果の検証

### □生活習慣の改善とフッ化物洗口の取組拡充

- 食や睡眠などの生活習慣の改善
- 歯みがき指導、食に関する指導、フッ化物の活用の3本柱で進めるむし歯予防対策



「芯の通った学校組織」を基盤とした

教育水準の向上

子どもの  
力と意欲の向上

## 2 授業改善の徹底

### □「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現（ALの視点）

- ① 1時間完結型（めあて・課題・まとめ・振り返り）の適切な設定  
※単元や題材の「ねらい」に即した「めあて」の設定  
※「めあて」に即した「振り返り」の設定
- ② 板書の構造化
- ③ 習熟の程度に応じた指導
  - ・ 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
  - ・ 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
- ④ 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

### □カリキュラム・マネジメントの推進

- 教科横断的な単元配列表等の作成及び活用

### □特別支援教育の視点からの授業改善

- 通常学級に在籍する教育的支援を必要とする児童生徒に対する「個別の指導計画」の作成及び活用

## 4 いじめ・不登校対策等の推進

### □いじめ・不登校に係る校内対策委員会等の定期的開催の徹底

- 「いじめの定義」「いじめ解消の定義」の周知徹底
- 教育相談コーディネーターを中心とした組織的取組の確立

### □専門スタッフ等の効果的活用と福祉関係機関との連携促進

- SC、SSWの校内対策委員会への参加や校内研修での積極的活用
- 地域児童・生徒支援コーディネーターの活用推進
- 教育支援センター（適応指導教室）等との連携強化
- 福祉等関係機関との連携強化

### □子どもの貧困対策に係る体制整備

- 市教委、福祉等関係機関との連携強化
- 子ども食堂への支援